

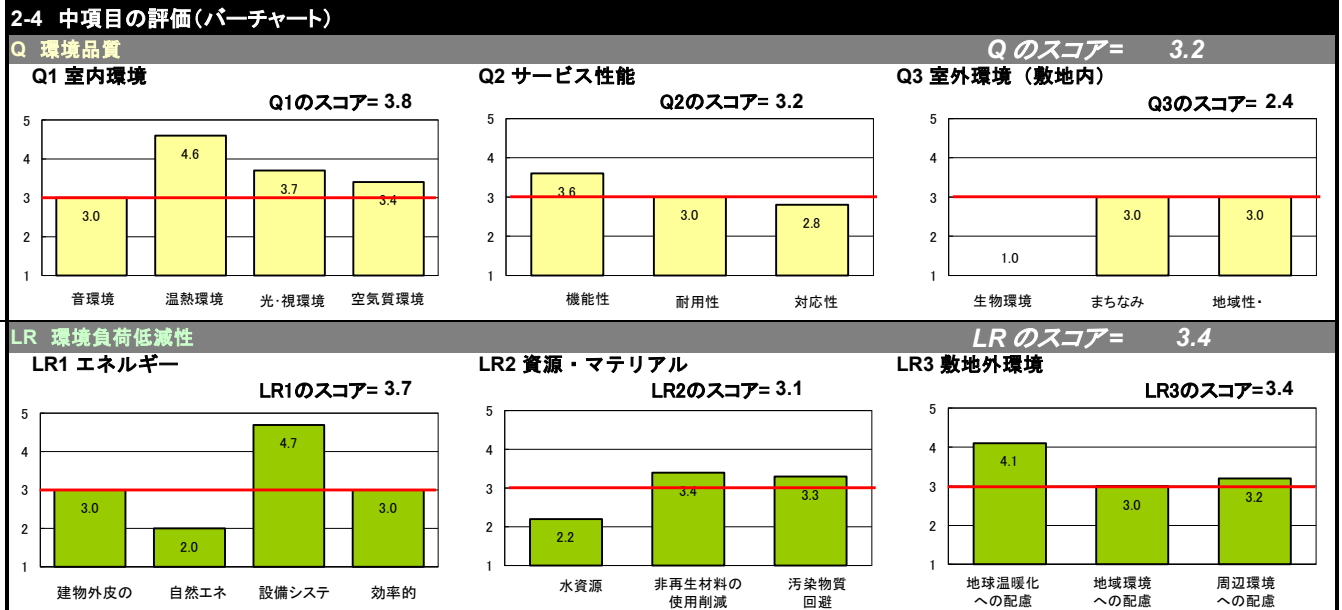
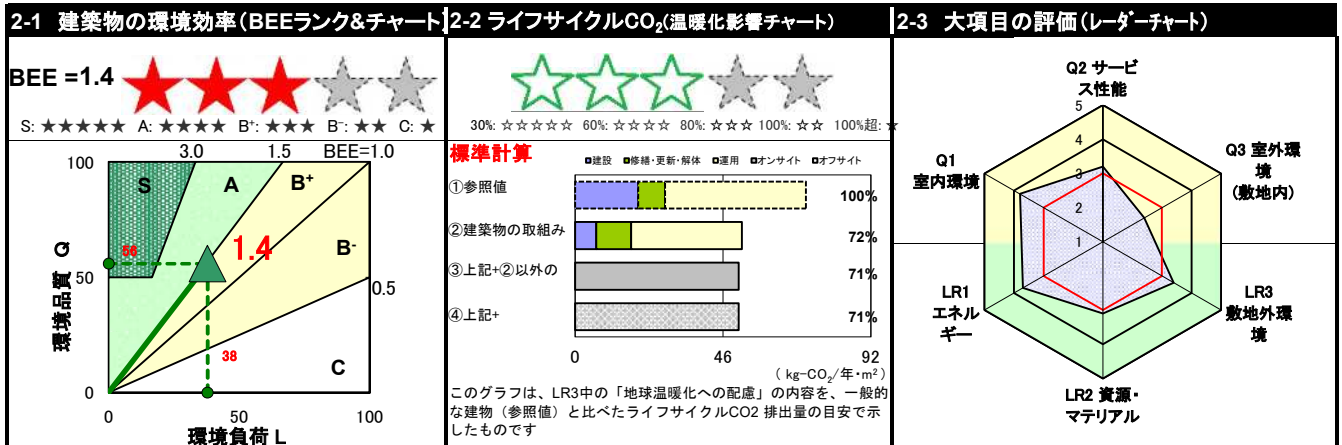
川崎市建築物環境配慮制度受付番号 25043

建築物名称	(仮称)川崎市中原区木月3丁目計画
建築主	トヨタホーム株式会社 代表取締役 西村 祐 中央日本土地建物株式会社 住宅事業推進部長 長尾 裕将 三信住建株式会社 代表取締役社長 信田 博幸
建築物の所在地	川崎市中原区木月480-11、15、57、58、59、118
設計者氏名、建築士事務所名	野々田 弥 株式会社日企設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	11,502.94㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和10年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、地中熱ヒートポンプ
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)川崎市中原区木月3丁目 計画	階数	地上5F
建設地	神奈川県川崎市中原区木月480-11,15,57,58,59,118	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	371 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年5月 予定	評価の実施日	2025年11月3日
敷地面積	4,975 m ²	作成者	野々田 弥
建築面積	3,208 m ²	確認日	2025年12月9日
延床面積	11,503 m ²	確認者	西村 祐

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2025(v.1.0)

(仮称)川崎市中原区木月3丁目 計画

25043

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0/4.3	2.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.2
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	日本住宅性能表示基準「5—1断熱等性能等級」における等級6相当である。 カーテンと庇を合わせることでよりグレアを制御します。	6.3/7.0	4.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.70	3.8/5.0	3.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。 ODP=0かつ、GWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材	3.0/4.7	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.2
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当。	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	床ビニル床タイル、断熱材	2.5/4.0	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	荷捌き駐車スペースを設備している。	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.70	3.8/5.0	3.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当。	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.70	3.8/5.0	3.8

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.40		-	3.8
1 音環境						3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル					—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音					—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能					—	3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					—	-	-	-	-	
2 温熱環境						2.2	0.35	5.0	1.00	4.6
2.1 室温制御					—	2.2	0.50	5.0	1.00	
1 室温					—	3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		W			日本住宅性能表示基準「5—1断熱等性能等級」における等級6相当である。	1.0	0.38	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性					—	-	-	-	-	
2.2 湿度制御					—	1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					—	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.4	0.25	4.0	1.00	3.7
3.1 昼光利用					2.0% ≤ [昼光率]	3.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率					—	3.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口					—	-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					カーテンと庇を合わせることでグレアを制御します。	1.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		W			—	1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					—	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					—	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.3	1.00	3.4
4.1 発生源対策					JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					—	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気					—	3.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量					—	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					—	-	-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					—	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					—	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.2
1 機能性						3.0	0.40	3.8	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性					CAT6Aの配線を使用している。	-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応					—	3.0	1.00	-	-	
3 バリアフリー計画					—	3.0	0.30	2.0	0.40	
1.2 心理性・快適性					—	-	-	3.0	0.50	
1 広さ感・景観					—	3.0	1.00	1.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	3.0	0.30	-	-	
3 内装計画					—	3.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理					—	3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当。	3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		—	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性										3.0	0.30	2.8	1.00	2.8	
	3.1 空間のゆとり										-	-	2.6	0.50		
	1 階高のゆとり								—		-	-	3.0	0.60		
	2 空間の形状・自由さ								—		-	-	2.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり								—		-	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性									3.0	1.00	-	-			
	1 空調配管の更新性								—	3.0	0.20	-	-			
	2 給排水管の更新性								—	3.0	0.20	-	-			
	3 電気配線の更新性								—	3.0	0.10	-	-			
	4 通信配線の更新性								—	3.0	0.10	-	-			
	5 設備機器の更新性								—	3.0	0.20	-	-			
	6 バックアップスペースの確保								—	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)											—	0.30	-	-	2.4	
1	生物環境の保全と創出				G	W			H	—	1.0	0.30	-	-	1.0	
2	まちなみ・景観への配慮				G					—	3.0	0.40	-	-	3.0	
3	地域性・アメニティへの配慮										3.0	0.30	-	-	3.0	
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上									—	3.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W			H	—	3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性												-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー												—	0.40	-	-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制					W			H	—	3.0	0.20	-	-	3.0	
2	自然エネルギー利用					W			H	—	2.0	0.10	-	-	2.0	
3	設備システムの高効率化					W			H	BEI=0.70	4.7	0.50	-	-	4.7	
	集合住宅以外の評価										-	-	-	-		
	集合住宅の評価										4.7	1.00	-	-		
4	効率的運用										3.0	0.20	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価										-	-	-	-		
	4.1 モニタリング					W			H	—	-	-	-	-		
	4.2 運用管理体制					W			H	—	-	-	-	-		
	集合住宅の評価										3.0	1.00	-	-		
	4.1 モニタリング					W			H	—	3.0	0.50	-	-		
	4.2 運用管理体制					W			H	—	3.0	0.50	-	-		
LR2 資源・マテリアル												—	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護					W		R			2.2	0.20	-	-	2.2	
	1.1 節水									—	1.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用									—	3.0	0.60	-	-		
	1 雨水利用システム導入の有無									—	3.0	1.00	-	-		
	2 雑排水等利用システム導入の有無									—	-	-	-	-		
2	非再生性資源の使用量削減										3.4	0.60	-	-	3.4	
	2.1 材料使用量の削減					W		R		—	2.0	0.10	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W		R		—	3.0	0.20	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W		R		—	3.0	0.20	-	-		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W		R		床:ビニル床タイル、断熱材	4.0	0.20	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W		R		—	2.0	0.10	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W		R		「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。	5.0	0.20	-	-		
3	汚染物質含有材料の使用回避										3.3	0.20	-	-	3.3	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用									—	3.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避										3.5	0.70	-	-		
	1 消火剤					W				—	-	-	-	-		
	2 発泡剤(断熱材等)					W				ODP=0かつ、GWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材	4.0	0.50	-	-		
	3 冷媒					W				—	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境												—	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮					W				ライフサイクルCO2排出率71%	4.1	0.33	-	-	4.1	
2	地域環境への配慮										3.0	0.33	-	-	3.0	
	2.1 大気汚染防止									—	3.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W			H	—	3.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制										3.0	0.25	-	-		
	1 雨水排水負荷低減							R		—	3.0	0.25	-	-		
	2 汚水処理負荷抑制							R		—	3.0	0.25	-	-		
	3 交通負荷抑制							R		—	3.0	0.25	-	-		
	4 廃棄物処理負荷抑制							R		—	3.0	0.25	-	-		
3	周辺環境への配慮										3.2	0.33	-	-	3.2	
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止										3.0	0.40	-	-		
	1 騒音									—	3.0	1.00	-	-		
	2 振動									—	-	-	-	-		
	3 悪臭									—	-	-	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制										3.0	0.40	-	-		
	1 風害の抑制									—	3.0	0.70	-	-		
	2 砂塵の抑制									—	-	-	-	-		
	3 日照阻害の抑制									—	3.0	0.30	-	-		
	3.3 光害の抑制										4.4	0.20	-	-		
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									適切な照度レベルや照明範囲を検討し、光害対策ガイドラインの配慮事項を過半数満たしている。また、屋外広告は行わない。	5.0	0.70	-	-		
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									—	3.0	0.30	-	-		

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0	-	-	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0	-	-	-	1.0	3.0	1.0	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0	-	1.0	-	-	-	3.0	1.0	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(窓の日射熱取得率(η) -							
U値(W/m2K) 窓システム -	屋根 -			外壁 -		床 -	
住戸部分システムU値 -	外皮UA値 -			ηAC -		ηAH -	
星光率 3.0%							
自然換気有効開口比 0.0%							

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	0 m					
壁長さ比率	0.0%					
床荷重	- N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	75%	建物緑化指数	1%				
空地率	35%	水平投影面積率	12%	地表面対策面積率	32%	舗装面積率	21%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	対象外断熱等性能等級	等級4 相当					
自然エネルギー直接利	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0	採光を満たす住戸数	0		
		通風を満たす教室数	0	通風を満たす住戸数	0		
		太陽光	#REF!	太陽熱等	#REF!	蓄電池	#REF!
BEI/BEI _m	再エネ	-	無	-	オフサイト再エネ有	-	-
一次エネルギー削減	再エネ	30%	無	27%	-	-	-

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%		
特定調達品目断熱材、ビニ、エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%		
オゾン層破壊係数(C	地球温暖化係数(GWP)		
オゾン層破壊係数(C	0	地球温暖化係数(GWP)	10
オゾン層破壊係数(C	地球温暖化係数(GWP)		

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		123%		棟間隔指標Rw		0.22													
地表面対策面積率		51.0%		屋根面对策面積率		1.0%		外壁面对策面積率		0.0%									
見付面積S _b		1.153㎡		1越風向と直交する最大敷地幅W _s		93.7 m		基準高さH _b		9.93 m									
緑地		723㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡		高反射対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡	